

平成30年11月19日

報 告 書

島田市議会議長 様

島田市議会議員 佐野 義晴

島田市議会議員 曾根 嘉明

島田市議会議員 桜井 洋子

島田市議会議員 横田川真人

島田市議会議員 河村 晴夫

議会報告会に出席しましたので、次のとおり報告します。

1 日時 平成30年11月10日（土）

午後 7時00分から 午後 8時30分まで

2 会場 大津農村環境改善センター「山王」大会議室

3 参加者数 54人（男性47人、女性7人）

4 役割

(1) 受付 全員

(2) 司会 佐野 義晴

(3) 挨拶（概要） 佐野 義晴 他4人自己紹介

今回の意見交換会で、市民の意見は提案として、議員個人・会派  
あるいは委員会で取りまとめて市政に反映していきたい。

(4) 答弁 総務・曾根 嘉明、厚生・桜井 洋子、経済・横田川真人

(5) 記録 河村 晴夫

## 5 報告事項

### (1) 意見及び情報の交換について

#### ・ 市政全般について各委員会の現状報告

厚生教育常任委員会・桜井洋子

現在、2つの課題で政策提言すべく調査研究をしている。

#### ① 田代の郷スポーツ・レクリエーション広場整備事業

平成32年にスタートするために基礎工事を進めている。当初に比べ計画予算が大きく、4.8億円で大型遊具・フットサルコート・スケードボード施設等含めていた。計画では8万人の需要予測となっているが、本当に沢山の人が来るだろうか。

市民の皆様から子育て世代の人達が利用して頂ける施設か考えて頂きたいという意見があり、そのテーマについて研究している。事業費は4.12億円と下がり、フットサルコート・スケードボード施設は無くし、芝生広場にして親子で楽しめる施設に変更し、芝生も市民と共に植えようという計画で進んでいる。事業の予算並びに進捗状況を委員会に報告するように進めている。今年の夏は暑すぎて遊具が熱くなり遊びに来るかという疑問もあるが、日陰を多くする、遊具の選考をどうするのか等について要望していく。

#### ② 市立島田市民病院の医師の確保

以前より議会でも多くの議員が質問しているが、市民からも医師の確保が大丈夫なのかと心配している声が多く聞かれる。工事が進む中、委員会では医師の確保をどのようにして係わっていくのか調査研究をしてきた。診療科の中で閉鎖している科もあり、どの科にどんな医師がいるのか一目で分かるものもあるが、不足する医師について、大学への要請や医師の協力も頂き、何とか診療を進めている。また、開業医との協力・地域医療の在り方など市民病院の医師が講師となって公演を実施している。前回は、認知症の事で学習会があり、島田の医療を守ろうとしている動きもあった。その中で、医師の不足を様々な角度から考えていき調査研究をしている。現在、診療専門医制度が始まっているが、医師の医学修学研修制度で3年間専門研修が都市に集中してしまう。財源措置を含め、国の施策を地域に分散するよう意見書を国に送ろうと計画中である。

総務生活常任委員会・曾根嘉明

現在、当委員会でも政策提言を取りまとめ中である。

#### ① 公共交通について

平成28年度に時間変更や便の変更等があり、ここ2年で大きく利用者が減少している。予算をかけても利用者が少なく費用対効果が非常に薄れているのが現状である。これに対しどのような解決をしていくのか問題である。その中でも公共交通の空白地帯が中間山地区にあり大きな課題である。利用者の都合のよい時間帯で運行できれば非常に都合がいいが、利用しないと時のバスの状況はあまりいい状況ではない。また、利用者の要望にも応えられていない状況でもある。

10月22日は茨城県日立市中里地区への視察に行った。この地域ではNPOを立ち上げ、8人乗りの車両2台を自主運行し、予約から車両の手配で利用者を家まで迎えに行き、最寄りの交通機関がある場所まで運ぶ運用をしている。10月23日は会津若松市湊地区への視察を行った。ここではICTを活用しながら中間山地域づくりを行っている。生活情報をテレビの画面で放映し、弱者の足の確保をするため、日産自動車から電気自動車を提供してもらい、デマンド型乗り合い自動車として実証運行している。これから地域運用していく途中であった。今後は、地域で独立した形で運営していくシステムであった。この地域でも交通の空白地帯であり、地域のリーダーが行政の協力も得て取りまとめている状況であった。この2点も考慮して11月定例会で提言していきたいと考えている。

② 少子高齢化による人口減少問題

若者が都会へ流出している現象について、島田に戻ってくる仕組みを作るのが大きな課題である。地域で安心して働ける職場の確保、他市からの移住を進める議論を進め、11月定例会で提言していく予定でいる。

経済建設常任委員会・横田川真人

① 中心市街地活性化をどのようにするか

先進地視察を行った。鳥根県松江市では、日本銀行の跡を利用し地元で活用できないか、商店街も協力して市民と行政が協力して市民広場を作った。また、鳥取市においては、駅前の4車線道路の2車線を潰し人が集まるスペースを作った。イベントは実施するが商店街への普及効果が薄くなっていた。いずれも参考になる事例だった。当市もここでしかできないことの提言を検討していきたい。

② 賑わい交流拠点について進捗状況をどうしていくのか

新城市の道の駅「もっくる新城」、三島市「伊豆・村の駅」、函南町「道の駅ゲートウェイ函南」の施設を視察した。新城市はいろいろな企画が展開されていて地場野菜・果物・猪料理が取り扱われていた。三島市では卵が有名になり様々な展開がされていた。テレビ・インスタ映えを活用することで拡散に繋げている。函南町は行政が創ったもので伊豆に抜ける位置づけとして展開している。それぞれの施設を参考に、販売するものの重要性を一番に考え、道路の整備を含め11月の提言に取りまとめていく予定である。

質疑

① 3委員会の話を聞いたがみんな同じことを言っている。少子高齢化で人口を増やす。弱者を救済する。市議会として提言をしていただきたいが、我々からすると市議会がまとまってしっかりしたリーダーシップを取ってもらいたい。どんな提言をしても様々な所に視察に行ってもリーダーがいなはいけない。継続的にしっかりやってほしい。

② 病院の医師不足について話があったが、病院を離れていく最大の理由は何だと考えるか。

A 個人の意見としては、医局からの引き上げがある。新しい研修制度が始まり、この4月から専門医制度が開始され、研修を受ける指導の医師がよいとたくさん集まる結果となる。そのため大都市へ集中してしまっている。医師の問題もあるが研修医を指導してくれている。皮膚科の医師は全国でも権威がある方である。開業する医師がいる。医師の家庭の問題もある。子供を教育するのに環境の良いところを望んでいて島田市の赴任を考えてしまう。地域医療を中心に経営の安定のための資金の援助や医師の派遣を意見書にしていきたい。本年4月現在 84 人の医師が在籍している。2023 年までには 100 人程度確保したい目標を掲げている。

③ コミバスの件で、広報等で見ると数千万円の赤字となっていると聞くと、視察先の市の状況はうまくいっているのか。

A 空白地帯で手段がなく、高齢者が多くなりなかなか足の確保が難しくなってきた中、地域の会長の努力と地域の住人の協力を得て事業を進めている。今年で 10 年経っているとのことで地区の方も生き生きして成功している事例であった。核になるリーターの存在が大きい。全戸で毎年一軒 2,000 円の拠出をしている。リーター核の変更等で継続していけるのか心配である。

島田市では退職して地域のリーダーとなっている人達の盛り上がりがないと可能性が低くなる。費用対効果も考えながら地域と連携していきたい。

④ 防災の関係で ICT を利用しての視察の話があったが、湯瀬先生を招いていろいろやっていると聞くとどのような進捗状況か具体的な施策を聞きたい。防災訓練で未だに電話の伝達訓練を実施しているが全く意味がない。途中で止まってしまう。現在は様々な伝達手段がある。

同報無線も風や雨で聞き取れない状況である。昔からわかっていることなのにいまだ改善されない。先進的な取り組みが必用ではないか。伝達するに末端までに時間がかかる。訓練を実施したことで満足しているのではないか。

A 防災訓練について各町内会で 8 月末と 12 月に実施する。実施方法は自治会によって違いがある。市と連携してやる自治会もあれば独自で同じ訓練をしている自治会もある。電話連絡は伝言だけになってしまうが、ある自治会ではメールで実施している。自治会で訓練の変更は自由にやっていただきたい。市からの連絡が行きわたらない状況で同報無線が入らない、FM 島田が入らないといった地域もあるが、防災メールの配信がある。個人のスマホに取り入れれば市の発信と同時に情報が入ってくる。危機管理課でも市民に推進を行っている。インターネットを活用したサイバーラジオも取り組んでいる。台風 24 号時には川根方面で停電があり今日復旧するのではなく、今日は復旧しないの連絡が欲しいとの声が多くあった。また、防災訓練がイベント化していてマンネリ化していて危機意識が薄れているというアンケート調査結果もあった。

・古い話だが、有線放送があった。家の中の同報無線である。同報無線の所に

広域Wi-Fi無線の設置をお願いしたい。テレビを利用した情報提供が有効的である。検討願いたい。

- ・災害は台風と地震があるが、毎年来る風水害を考えていただきたい。
  - ・防災メールの活用を是非お願いしたい。お金もかからない。
  - ・地域防災について、大津地区は過去に於いて大津谷川が決壊し、水害を受けた実績がある。ここにいる大半の方が経験者である。島田市の中でも2回被害があった所は少ない。体験を生かして何か要望があったら言ってほしい。
- ⑤ 水の問題で市民病院の近くは非常に水が溜まりやすい。記憶の中では4回ほどあった。昭和34年の水害では一面海のようなようだった。島田二中の前の水路がありこれがオーバーするとほとんど市民病院に流れてきてしまう。病院の新設に当たりバイパスの4車線化で、市民病院の横の水路に全部流れ込んでくる。バイパス水路を以前作ったが、市曰く、大水が出たら大津川の水門を止めてその水路に流すということだが、果たしてバイパスが出来て市民病院が大きくなってかなりの水が予測されるが、現在のバイパス水路で充分耐えられるか懸念している。大丈夫という声が聞こえてこない。
- A 水の問題で、市議会定例会での過去の答弁としては時間122mまでの雨量に対しては大丈夫との回答があった。その当時の環境での話で、バイパスを含めるとオーバーフローする可能性がある。この問題は今ここで早急に答えられない。
- ⑥ 台風24号で樹齢300年の桜の木が倒れた。民家への影響はなかったが、作業業者の通行に支障があり、木を伐採してくれたが後の処理はしていない状態である。市の方に伺ったが処理をしてもらえないようである。業者に依頼すれば50万円かかる。更にユンボ使用で15万円、処理代で20万円かかり、それを町内会で持てというのは非常に不合理である。このようなことこそ行政でやっていただけないか。
- A 倒木したことについて、岸町大日山裏手の樹木2本が台風24号で根が浮いた状態になり、台風25号の心配もあり一時的なワイヤーでの対応をし、その後伐採した。伐採費用は大日山関係費用として支出し、伐採した木・枝類は市のすぐやる課で処理してもらった。運ぶ処理に関しては協力してもらえる。所有者の責任において処理する原則を取っている。
- ・所有者も分からないものに対し、小さい町内で30万円も出すのは厳しい。非常に無理だと思う。
  - ・所有者不明の土地の対策に関連している。平成28年に法改正があり市でも協議会を設置し処理していく方向になっている。
- 桜の木の処理費の問題は今回承っていく。
- ⑦ 防災の関係でけが人が出た場合の救護場所について教えていただきたい。
- A 市内6カ所である。島田第一中学校・島田市保健福祉センター・六合公民館・初倉公民館・金谷小学校・川根小学校で、大津地区の方は保険福祉センターへ行ってほしい。

⑧ 防災関係で、市で出しているハザードマップがあるが自宅がはっきり分からなく危険個所と判断しにくい。このハザードマップをはっきり分かりやすくできないか。

A ハザードマップは市内を6分割にして公示され各家に配布されている。各戸までは記載していない。大体で判断していただきたい。

⑨ よい病院が出来たらよい医師が集まるということはないと思う。市民病院の評判が日に日に悪くなっている。一方で藤枝市や焼津市の病院の評判がよい。市民病院建設は大津地区の核になる事業なので、提言書に盛り込んでいただきたい。

A 新規に開設した病院で医師が集まらない所もある。そのようなことがないよう、市民が安心して診察できる病院を、経営を含めて質の問題も努力していきたい。島田市出身の研修医に勤務してもらう対策もしている。六合の診療所の御子息が今度市民病院に勤めていただいた。

⑩ 大津地区の農業基盤整備のプロジェクトがJA大井川の支部長会の中で進められているが、米を作る量が減ってきている。耕作放棄地が増えている状況に対し、政府が農業振興や中間山地域の再生をしようとする事業だが、そのプロジェクトが何となくもどかしい感じがある。個人では積極的な専業の農業生産者が段々減り、担い手とその事業をやるとか、その地域で80%以上の方が賛同し、農地中間管理機構に15年間貸したり、5年以内に収益を20%アップさせるなど数々のハードルが設定されている。個人では担い手にもならないし、賛同できないのではと感じた。機械化すればそれなりに効率化されると思うが制約が多々あるので進めにくい状態である。個人としては進めてほしいという希望である。

A 現在農地中間管理機構関連農地整備事業で、大津地区と牧之原地域の調査の実施をしている。大津地区は40haを対象に実施されると概算事業費9.8億円で市の負担は0.78億円で地元負担なしの事業である。平成38年までの工事期間となる。実施に移すためには地元の地権者が賛同しまとまらないと事業ができないこととなる。高齢化・継承者がいないという問題も踏まえてこのような事業が展開されている。高いハードルの中で20%の生産性を上げるとあったが、収穫率が上げるわけではなく、効率化による人件費の削減等でクリアできるので心配はいらない。対象区域に賛同できない人がいた場合、土地の交換等の手続きなど諸問題も発生するため、関係者のとりまとめが重要となる。

- ・ 個人を対象に説明を受けているが、なかなかまとまらない。グループや会社等で進められるのであれば、地域の人でなく専門的な方の協力を得て進めていただきたい。これから大津地区を活性化し、農業者を継続的に育てるのであれば、協同やグループでの対応が必要と考えるがバックアップをしていただけないか。

- ・ 施策は理解できるが、進める上で行政や農協が指導的な立場を執れと解釈する。島田市の中で、牧之原地域と大津地区が先行して取り組んでいる。

ある意味最先端を行っている。地域の一体的な取り組みが必要である。

- ⑪ 災害情報の伝達の件で、情報を共有してもいざ動けるかとなると疑問がある。

行政・各自治会間での指示・連絡・情報の共有ができていないのではないか。担当の危機管理課と各自治会との情報共有があるべきではないか。専用回路をつくり各自治会長にはストレートに伝わるシステムを望むがどうか。避難所開設の話ではない。初期の段階の話が大切である。

- A 初期段階では自治会長に連絡が行く手はずとなっている。自治会長から各戸への連絡がタイムログがあるのも理解しているし改善していかなければならない。情報も個別の案件や全体での案件もあり、川根の停電の情報は大津地区では必要ないだろうし、タイムリーな情報の発信を市も考えていかなければならない。市民もどこにアクセスすれば情報が取れるか行政側からもアシストしてもらうよう周知するようお願いする。

- ・ 台風の時も、役員でどうしようかと話し合い、地区の住民に避難を呼びかけるか検討したが、市当局からの通達連絡指示がなかったので右往左往していた状態であった。指示をもらうのもおかしいが、現状こうだからこうした方がいいという指示をいただきたい。また、危機管理課と自治会長会との連絡・機能を高めるためにも専用の通信回線を設けてもらいたい。

- ・ 台風の時、避難するか否かの議論をした話だが、市からの指示はなかったが、実際に危険だったら地区代表者の権限で避難指示を出し避難することが重要である。各自スマホを持っているので危機管理課にアクセスする必要もある。雨が降り大津谷川がこういう状態になっているという情報を市民から市に届けることも必要だ。

それがリアルタイムに集約され当局と地元が情報の共有化で密になる。これからはそういう形の構築をしていかなければならない。市民も積極的にできる体制を作ってほしいと常々言っているので協力願う。災害は最小限に食い止めるが一番である。

- ・ 防災の関係で、議員5人の共通の事例として「千葉山」がある。千葉山へ降った雨水は、相賀・伊太・大津・六合の4河川に流れ込んでいる。島田市には公認の雨量計が空港と土木事務所の2カ所しかない。北部については雨量計がない。雨量計と各河川の水位計を連携した行動を考えることを徐々に進めている。時期的には方向づけていないが検討している。

- ⑫ 市からの連絡網の話で現状を報告する。台風が発生すると、市から自治会長に連絡がある。避難所を開設した場合は避難者がいたら連絡している。過去において要支援者の避難について連絡するとの通達があり一回だけ実施した。要支援者の情報は個人情報で事前にはもらってなく、名簿を渡されるので大津小学校にもらいに行き、名簿に基づき避難の講堂を確認する作業を各町内会長に協力していただいた。市としては丁寧に警報が発令する前からケアしている。

12月2日の防災訓練で、避難所開設でここ何年か会議を開いていない。現

時点の役員では、どのように避難所を開設しどのように対応していいのかわからない状態である。開設からの基本からレクチャーしていただきたい。大津地区の避難は地震の想定での対応で準備している。台風と地震とは違う。今後、風水害の避難としての被害想定(水害・土砂災害・倒木被害・流木被害)も気象別の避難所開設も検討願いたいし勉強会もしていただきたい。

- ・スマホにNHKニュース防災というアプリがあり、降水情報や時間別情報があり便利で有効。防災メールも併せて利用すれば事前の情報が得られる。
- ⑬ 賑わい交流拠点の話で、4者での対応で進めているが市の強い支援・バックアップをお願いしたい。大井川鐵道・NEXCO中日本のまとめ役としていただければありがたい。

旧金谷中学校跡地の問題も出ており、牧之原地区の22haの商業施設の開設の話もあり今後の課題にもなる。利害含めいろいろな調整をお願いし、施策としても進めていただきたい。

- ⑭ 田代の郷多目的広場について、今から進められると思うが、大津にとっても近い所でもありよいことだ。よい広場により設備ができることを期待している。完成した場合行き来する車両が増加することが予測される。温泉や焼却場があり、ただでさえ利用する車両が行き来している。大津の道路事情を見たときに野田、落合に行く道が狭くてアクセスが悪くて危険なところがある。道路整備を考えたいうえで対応していただきたい。

視察へ行ったことの報告があったが、他の市町村からも島田市へ視察に来るような施設を作っていただきたい。島田市にはこういう良い施設があると議会でアピールしていただきたい。

多目的広場も夏に人が来るかとの話もあったが、来るようにするにはどうしたらいいのか、どういうものを作ったらいいか議会の中で知恵を出していただきたい。

- A 田代の郷スポーツ広場の駐車場は整備している。子育て世代の家族だけでなくハイキングコースや温泉もあり環境もよい。市民にたくさん来てほしいが、関連する道路事情が心配される。具体的な道路事情を上げていただきたい。交通安全に関しては委員会中で要望していく。

市のこども館は空調もあり、市外の家族も多く来場している。

- ・藤枝市と島田市で比べると、年間の交流者は島田市の方が多い。1年間に280万人いる。藤枝市は250万人以下である。いろいろな施設ができれば、連携した効果が生まれる。

その他意見がある方もいると思うが、各議員に個別に対応していただきたい。



## 6 その他

### (1) 周知方法について（会場ごとにどのような工夫をしたか）

自治会通知

電話連絡

## 7 まとめ（所見）

意見交換会は大津会場が2回目でしたが、多くの参加者に来ていただき、貴重な意見を聞かせていただきありがとうございました。

今後、大津会場でなくても必ず意見交換会をやりますのでご参加願います。

今回、ご指摘をいただいた事項は、個々・委員会で議会として検討しいろいろな面で提言していきます。

内容の濃い質問が多く、質問提起されたことで理解できたこともあった他、解決してない事項もあったが、継続的に検討していきたい。